

申請先: 財団法人全国地域情報化推進協会 事務局

「公開用DB方式の統合DB製品」PF準拠確認チェックリスト

APPLIC 登録番号: ★APPLICで記載

(1) 対象標準とバージョン

・プラットフォーム通信標準仕様V2.0 ・アーキテクチャ標準仕様V2.0

(2) PF準拠確認対象製品やシステムの情報と連絡先

(a) 申請日(西暦年月日):

(b) 申請区分(新規、修正、破棄):

(c) 申請者

団体名: ★識別キー項目1

団体のURL: (識別キー項目3つで

APPLIC会員番号: ユニークになるように申請者が指定する)

(d) 製品情報

製品説明のURL: ★識別キー項目2

代表製品名:

複数製品で構成する場合追記:

複数製品で構成する場合追記:

複数製品で構成する場合追記:

製品識別情報(バージョン等): ★識別キー項目3

リリース日(予定)(西暦年月日):

対応OS:

Windows Server 2008 R2 Web, Standard, Enterprise, Datacenter
Windows Server 2008 Web, Standard, Enterprise, Datacenter(各エディションに Service Pack 2 以降が必要)
Windows 7 Ultimate, Enterprise, Professional, Home Premium, Home Basic
Windows Vista Ultimate Edition, Home Premium Edition, Home Basic Edition, Enterprise Edition, Business Edition,
Windows Server 2003 R2 Standard Edition, Enterprise Edition, Datacenter Edition
Windows Server 2003 Standard Edition, Enterprise Edition, Datacenter Edition (各エディションに Service Pack 2 以降が必要)
Windows XP Professional Edition (Service Pack 3 以降が必要)

製品の形態((1)型から(3)型):

全て同一提供者

全て同一提供者

Y社製品を

統合DB製品
(サービスIF処理)
(PF通信処理)

統合DB製品
(サービスIF処理)
PF通信製品

統合DB製品
(サービスIF処理)
Y社PF通信製品

(1)型

(2)型

(3)型

前提となるPF通信製品

前提PF通信製品名: ※1

前提PF通信製品名: ※1

※1 (2)型、(3)型の場合、既に、準拠登録申請してあるPF通信機能を実装する製品名を記載する。

(3)PF準拠確認チェック項目(準拠ルール)

※: 下記の機能が実装された製品でなく、ソリューションによる提供場合、「前提事項や制限事項」の欄にそのことを記載すること
◎:対応、○:制約のあるもの(制約がある場合は備考欄に記載する)↓

番号	準拠ルール (番号(CS-RXXXXX)は、サービス基盤標準書に記載のある関連準拠ルールの番号)	必須/ 選択	サイト内	
			製品・ システム 確認	APPLIC 確認欄
1	「PF通信(PF通信機能)」製品 PF準拠確認チェックリストにおける準拠ルールを満たす	必須	◎	
1-1	HTTP通信(IPv4, HTTP1.1)を行えること (CS-R020001, CS-R020002)	必須	◎	
1-2	SOAP通信(SOAP1.1, document/literal, WS-Interopプロファイル1.0)を行えること (CS-R020003,CS-R020004)	必須	◎	

【付録3】

地域情報プラットフォーム準拠確認チェックリスト：「サービス基盤」

1-3	標準仕様書で定義するXMLインスタンスの形式に対応できること (CS-R032001)	必須	◎	
1-4	標準仕様書で定義するサービスインターフェース定義に対応できること (CS-R032003)	必須	◎	
1-5	PF通信標準仕様のメッセージ交換パターンの1つである「リクエスト・レスポンス型同期型レスポンス」のPF通信を行えること (CS-R060002, CS-R060005, CS-R060009)	必須	◎	
2	アーキテクチャ標準仕様4.5.4節「統合DB機能」における、公開用DB方式の機能要件を満たす	必須	◎	
2-1	利用I/Fとして、1つ以上の業務ユニットインターフェース標準(V2.0)を実装していること (AS-R045403)	必須	◎	
2-2	利用I/Fとして、SQLによるインターフェースを提供していること (AS-R045404)	選択	◎	
2-3	提供側業務ユニットに対し、統合DBのDB更新機能(PUSH型データ提供機能)としてSOAPまたはSQLのインターフェースを提供していること (AS-R045405)	必須	◎	
2-4	統合DBと業務ユニットの間で交換されるデータの文字コードとしてPF標準(UTF-8または16)を使用できること (AS-R045407)	選択	◎	
2-5	外字を扱えること (AS-R045408)	必須	◎	

備考欄(前提事項や制限事項)

・SQL Server 2008 R2 の製品形態は(2)型であるため、本製品が統合DBとして機能するためには、Microsoft .NET Framework 3.5 が必須となる。
 ・各種インターフェース(2-1, 2-3 等)は、Microsoft .NET Framework 3.5 によって実装される。SQL Server 2008 R2 そのものがインターフェースを実装済みであるわけではない。